

吉田証言記事一覧

No.	年月日	記事タイトル (G) / 内容の一部抜粋	取消日付	取消公表日付	備考
1	1980.3.7 川崎・横浜 東部版	連載 韓国・朝鮮人Ⅱ27 命令忠実に実行 抵抗すれば木剣 《2回ほど朝鮮半島に出かけ、「朝鮮人狩り」に携わった》	2014.12.23	2014.12.23	朝日の吉田証言に関する初報。但し、徴用時の強制連行の話で、慰安婦強制連行には及んでいない。
2	1982.9.2 大阪本社版	朝鮮の女性 私も連行 元動員指揮者が証言 暴力加え無理やり 《朝鮮人慰安婦は皇軍慰問女子挺身隊という名で戦線に送り出しました。当時、われわれは「徴用」といわず「狩り出し」という言葉を使っていました。》	2014.8.5	2014.10.10	朝日の慰安婦強制連行に関する吉田証言初報。
3	1982.10.1	朝鮮人こうして連行 「樺太裁判」で体験を証言 《あらかじめ朝鮮人の集落を包囲し、一挙に襲い、殴りながら男たちを連行した》	未取消	未公表	吉田が樺太裁判の法廷で証言した「朝鮮人狩り出し」の証言記事。慰安婦に関する証言ではないが、No.1, 4~5, 7等を取消しながら本記事は未取消なのは不可解
4	1983.10.19 夕刊	韓国の丘に謝罪の碑 東京の吉田さん「徴用の鬼」いま建立 《私は徴用・強制連行を実行した日本人の一人として死後もあなたの霊の前に拝跪謝罪を続けます 元労務報国会徴用隊長 吉田清治》	2014.8.5	2014.10.10	碑文は徴用に対する謝罪文で、慰安婦強制連行には言及していない。
5	1983.11.10	ひと 朝鮮人を強制連行した謝罪碑を韓国に建てる吉田清治さん 《国家による人狩り、としかいいようのない徴用が、わずか三十数年で、歴史のヤミに葬られようとしている》	同上	同上	執筆は清田治史記者。吉田の顔写真入りだが、慰安婦についての言及はなし。
6	1983.12.24	たった一人の謝罪 強制連行の吉田さん 韓国で「碑」除幕式 《吉田さんは、…自分が指揮しただけで女子てい身隊員九百五十人を含め六千人を徴用した》 《メモ …「女子てい身隊」名目で前線に送られた慰安婦は五〜七万人にのぼるといわれる》	同上	同上	執筆は清田記者。吉田が謝罪碑前で土下座する写真入り。
7	1984.1.17 夕刊 大阪本社版	連載 うづく傷跡 朝鮮人強制連行の現在① 徴用に新郎奪われて	2014.12.23	2014.12.23	吉田が韓国に建てた謝罪碑除幕式の様子を紹介。慰安婦についての言及はなし。
8	1986.7.9	アジアの戦争犠牲者を追悼 8月15日、タイと大阪で集会 《従軍慰安婦を含む朝鮮人の強制連行の指揮に当たった吉田清治さん（七二）＝千葉県我孫子市＝が体験を話す》	2014.8.5	2014.10.10	集会案内記事の一部
9	1990.6.19 大阪本社版	朝鮮人強制連行の名簿、知事の命令で焼却 元動員部長が証言 《同じやり方で多くの朝鮮人女性を従軍慰安婦として連れ去ったこともあります》	同上	同上	吉田が戦後、山口県知事の命で強制連行関係書類を証拠隠滅のため焼却したという証言。

10	1991.5.22 大阪本社版	従軍慰安婦 加害者側の証言 手紙 女たちの太平洋戦争 《私が今日、最も恥ずべきこと、心を痛めている問題の一つは、従軍慰安婦を九五〇人強制連行した事です。従軍慰安婦という制度は、日本軍がアジア各地、太平洋諸島へ侵略したとき、その駐留陸・海軍の指揮のもと、直接の援助のもとに設置したというのは世界史上ないそうです。…これが太平洋戦争における日本陸・海軍の最も大きい罪だと私は信じております》	同上	2014.12.23	執筆は井上裕雅記者。 朝日は「著作物の引用が多い」「編者である団体名が記載されている」ことを理由に、本記事の公表を見合せていた(14.10.10)が、その後追加公表した(14.12.23)。本記事は戦争犠牲者を心に刻む会編『アジアの声 侵略戦争への告発』から引用したもの。
11	1991.10.10 大阪本社版	従軍慰安婦 加害者側から再び証言 女たちの太平洋戦争 《私が連行に関与したのは千人ぐらいですが、多くが人妻だったのではないのでしょうか。…若い母親の手をねじ上げ、けったり殴ったりして護送車に載せるのです》	同上	2014.10.10	執筆は井上記者。 吉田のインタビュー記事。
12	1992.1.23	論壇 従軍慰安婦への責任と罪 《従来は朝鮮人従軍慰安婦は未婚女性がほとんどだといわれていたが、実際は既婚者、子持ちの女性が意外に多かった…。このことは、当時、山口県労務報国会下関支部の動員部長で、千人近くの朝鮮人従軍慰安婦を連行した吉田清治さん(七八)が証言している》	同上	未公表	執筆者は山谷哲夫(映画監督) 朝日は「吉田氏に関する記事が朝日新聞やテレビの報道の引用であることなどを考慮し」、本記事の公表を見合せている。(14.10.10)
13	1992.1.23 夕刊	窓 論説委員室から 従軍慰安婦 《国家権力が警察を使い、植民地の女性を絶対に逃げられない状態で誘拐し、戦場に運び、一年二年と監禁し、集団強姦し、そして日本軍が退却する時には戦場に放置した。私が強制連行した朝鮮人のうち、男性の半分、女性の全部が死んだと思います》	同上	2014.10.10	執筆は北島清泰論説委員。
14	1992.2.1	冷静な検証のない危険性 私の紙面批評 《二十三日夕刊の「窓」に掲載された吉田清治氏(七八)の証言によれば、氏がかつて労務報国会の動員部長として朝鮮総督府の役人や警官と共に村を包囲して女性を追い立て、木剣で殴りつけてはトラックに運び去ったとある》	同上	未公表	執筆者は篠田正浩(映画監督) 朝日は「吉田氏に関する記事が朝日新聞やテレビの報道の引用であることなどを考慮し」、本記事の公表を見合せている。(14.10.10)
15	1992.3.3 夕刊	窓 論説委員室から 歴史のために 《その後、たくさんの投書をいただいた。(中略)知りたくない、信じたくないことがある。だが、その思いと格闘しないことには、歴史は残せない》	同上	2014.10.10	執筆は北島論説委員。 1月23日記事の続報。吉田証言を否定する投書に対し、吉田証言を全面的に擁護。
16	1992.5.24	「慰安婦問題 今こそ 自ら謝りたい」「連行の証言者、7月訪韓」 《「私が慰安婦を朝鮮半島から強制連行した」と証言している千葉県在住の吉田清治さん(七八)が七月、韓国に「謝罪の旅」に出る》	同上	同上	吉田が韓国に「謝罪の旅」に出ること、男女6000人を強制連行した体験を「国会でもどこでも行って話す」と語っていることなどを紹介。

(別紙吉田証言記事一覧)

17	1992.8.13	元慰安婦に謝罪 ソウルで吉田さん 《太平洋戦争当時、山口県労務報国会動員部長として、朝鮮人慰安婦や軍人、軍属を強制連行したと証言している吉田清治さん（七八）》	同上	同上	執筆は小田川興ソウル支局長。 吉田がソウルで、元慰安婦の金学順に「頭を下げて謝罪」と報道。
18	1994.1.25	政治動かした調査報道 慰安婦・強制連行 《「女たちの太平洋戦争」に、慰安婦問題が登場したのは、翌九一年五月。朝鮮に渡って強制的に慰安婦を送り出した元動員部長の証言に、読者から驚きの電話が何十本も届いた》	同上	同上	「女たちの太平洋戦争」で吉田証言を取り上げ、日本ジャーナリスト会議賞を受賞したと自画自賛する内容。
19	1997.2.7	声 当事者の声になぜ耳閉ざす 《韓国などの慰安婦にされた人の話は、まったくでたらめだというのだろうか。テレビで元軍人が「私は少なくとも千人は徴用しました。女の徴用がどんなにいやな仕事だったか」と話すのを聞いたことがあるが、これも徴用であって慰安婦にしたのではないというのだろうか》	同上	未公表	投稿者は西峯圭子（主婦）。教科書から「従軍慰安婦」記述を削除すべきだという主張に反論した投書。 朝日は「吉田氏に関する記事が朝日新聞やテレビの報道の引用であることなどを考慮し」、本記事の公表を見合せている。(14.10.10)